

新緑が目にも染みる季節ですね。優雅な気分。風に揺れる若葉は音がしないんですね。

アパレル工場を目指して山梨に開設して以来今年で10年目に入りました。場所は岩手県北上市と変わりましたが工場を持つニットアパレルとして定着してきました。

自分で企画して、自分で作って、自分で売る。ごく当たり前のことですが、業界では変わり者だそうなんです。時間はかかりますが納得のいくモノづくりをしながら、お客様に喜んでいただけたことを第一に進みたいと思います。

もうすぐワールドカップ・ブラジル大会が始まりますね。40年も前からサッカーファンですが、ワールドカップ本大会なんて夢のまた夢の時代からすると、日本代表が本大会に出ることができるとにオールドサッカーファンとしては、限らない喜びを感じます。もう5回連続出場ですよ。信じられませんか！



アオスジアゲハ

【カシミアのUTOを作る麻ニット】

「UOでは秋冬になるとカシミアの仕事に追われます。当然ですが、経営を安定させるためにも夏場を何とかしなければなりません。」

「この20年、『冬のカシミアに対する春夏素材はなんだろう？』と、いろんな素材を使ってニットを作ってきましたが、UOのカシミアが有名になるほど「UO」はカシミアでしよー！と言われてしまいました。でも会社として社員や職人さんたちの生活を維持するためにも通年の仕事を確保しなくては経営は安定しませぬ。」

高温多湿の日本ではやはり麻素材が一番向いていると確信し、この麻が良いかと探していました。麻(リネン)と言ったらヨーロッパ、リネン。それこそ金の草鞋をはいて探そうな中でヨーロッパリネン名門企業のハードマンズ社との出会いは幸運でした。

素材に対する熟練度を要求されるものづくりとしては良い原料に出会うことはほんとうに嬉しいことです。

ウールの宝石と呼ばれるカシミアで育んだ丁寧なもの作りを春夏のリネンにも生かします。

最高のリネンと日本の職人のコラボをお楽しみください。

こんにちはは藤谷です。

長かった冬が終わり、過ごしやすくなつてまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。私はようやく衣替えを完了しました。

冬の間お世話になった衣類を手入れし、次の冬の為にしようか。お手持ちのいいことですね。またコツがつかめないカシミアのお手入れは、実験のように試行錯誤している日々ですが、ひとまず最善と思われる処置をしました。お手入れもうまくできたら楽しくなりそうです。大事にして長く風合いの変化を楽しみたいですね。

\*カシミア製品のお手入れについて\*

カシミアの織物製品はドライクリーニングですが、ニット製品はウール用洗剤もしくはシャンプーとリン

スと水で手洗いが可能です。シーズン末にはカシミアニットは洗うかクリーニングし、ゆとりのある衣装袋に入れ、湿気のない涼しい場所に保管します。手洗いをした場合はよく乾かしてからしまえます。ニット製品はたんで引き出しに入れます。編地がのびてしまうので、ハンガーにかけたままにしないように注意です。虫除けに防虫剤を忘れずに入れます。

\*\*\*\*\*

さて、いよいよ梅雨の到来です。1ヶ月位続くこの梅雨が来るのが楽しみです。梅雨入り、中休み、そして終りの方の大雨。くるくる表情が変わるので、日常を新鮮にしてくれる楽しいひと時です。来る厳しい夏に備えて体調も整えたいですね。

【青山・表参道界隈】

UOはこんな街から発信しています

兵隊さんの街だった、青山・六本木界隈

ファッションの街からは想像できない時代もあったんだ

住んでいたようです。

青山・表参道界隈はハイセンスなファッションの街というイメージがありますが、それは1964年の東京オリンピック以後のことです。それまではごく普通の東京の街だったようですが、明治から戦前にかけての頃の青山は兵隊さんの街という物騒な時代があったそうなんです。

明治40年と昭和20年の地図を港区の図書館でもらいましたが、二つを見比べると時代の変遷がよく分かります。

そのころの青山・六本木界隈の大きな敷地はこことく軍の施設といつていいぐらいです。

現在国立新美術館のあるところは、近衛歩兵第一連隊で、あの2・26事件を起こした若手将校達がいたところなんです。国立新美術館のロビーに当時の連隊の建物の模型がガラスケースに入れられて展示されています。

すぐ近くの現在の東京ミッドタウンは、明治維新前までは長州藩の下屋敷で、明治になってからは大日本帝国陸軍第一・第三連隊の駐屯地があった処です。青山一丁目の青山墓地下は近衛師団の砲撃場です。

神宮一帯は練兵場があり、青山一丁目のホンダ本社の向かい側には陸軍の最高学府の陸軍大学がありました。明治神宮は陸軍の演習場。これだけ軍の施設があったので、軍人さんも沢山



以前この通信で書きましたが、斎藤茂吉が院長で北杜夫の榆家の人々の青山脳病院もちゃんと記載されています。

田口道子さんの『陽はおちても朝は来る』の中でも、兵隊さんが代々木の練兵場へ向かう兵隊さんが訓練から帰ってくる描写があります。それほど兵隊さんは身近だったんですね。

また、東京大空襲で青山は焼け野が原になったそうなんです。これだけ軍の施設が集まったら絶対に狙撃にされたに違いないと思います。

現在の東京ミッドタウンは、戦後防衛庁になりましたが、その他のところは日本軍が無くなって全くだった施設になりましたが、唯一青山公園の一角が米軍の基地になっていて時々爆音をたててヘリコプターが降りてきますが、これも未解決基地問題のひとつです。

麻100% 8分袖 ワイドボーダープルオーバー

1132-1086 ¥18,360 税込



コントラストの効いたワイドなボーダーが魅力的で、裾のスリットが身軽なカジュアル感を演出します。Tシャツやタンクトップの上からざっくり着用してください。大きくボートに開いた衿と、8分の袖がポイントです！夏の8分袖はとっても便利なのに、ありそうでなかなかありません。

麻100% リブ衿ボレロ

1137-2110 ¥29,160 税込



さらっとはおれる手軽さでシーンを問わず使える便利な1枚。衿から裾までをリブでぐるりと囲んだ上品なスタイルで使いやすい抜群です。正面の印象はショート丈で後ろは短すぎない美しいバランスです。ノースリーブのインナーとの相性は抜群です。

7分袖 着流しカーデガン

1132-2098 ¥27,000 税込



真、羽織り物は活躍します！長めの着丈がウエストをしっかりとカバーしてくれる着やすいカーデガンです。袖は7分なので、手首をみせて爽やかに着こなせます。シンプルなので着まわしやすく、インナーを選ばずさらっとはおれて便利です。

# カシミヤとニットの話 \* (四十七)

【2014年、春夏は麻(リネン)です！】

リネンは麻の王様(最高級品)です

夏は麻(リネン)の出番！

麻は汗など吸水性と撥水性に優れた天然素材です

高温多湿の日本の夏、かろくてシヤリ感のあるリネンの肌触りが心地よく爽やかな涼感を呼びます。そして使うほど柔らかくなりますので、高温多湿の日本の夏の衣料として最適な素材です。

麻は植物の皮の繊維を紡績したもので、人類が1万年も前から使ってきた天然素材です。麻はリネン、ラミー、ヘンプ、ジュートの4種類に大別され、衣類に使われるのは主にリネンとラミーです。



リネンは亜麻と呼ばれる一年草の草本科の植物の表皮を使った製品で、主にヨーロッパなどの比較的气温の低いところで栽培されています。

一方、ラミーは多年生の皮の繊維(苧麻)から作られ、抜群の強度があります。リネンに比べて少しこわくわ感がありますが、世界的にも生産量が多く麻生産の大部分を占めます。

## UTOニットの麻の故郷はベルギー

ヨーロッパで生産されるリネンは柔らかくて肌に優しく、昔から高級な寝具やランジェリーなど使われてきました。

ヨーロッパ人はリネンに対する評価が高く憧れにも似たようなリネン文化が定着しています。

ベルギー、フランス、スコットランド、アイルランドなどが代表的な産地で、その良質な原料を使い高度

な加工技術で紡績を行う多くのリネン企業がありました。近年中国などの安価なリネンやラミー等に押されヨーロッパの産地は壊滅的な状況です。

ヨーロッパ有数の伝統を誇るハードマンズ社のリネンを使用

そんな厳しい現状の中で、ヨーロッパの伝統を受け継ぎ、高度な技術でリネン作りの伝統を守っているのがハードマンズ社です。

ハードマンズ社は1835年にアイルランドで創業したリネン企業の中で、ヨーロッパでは誰もが知る伝統を持った有名企業ですが、現在の主力工場は南アフリカにあります。

UTOのリネン製品はこのハードマンズ社の糸を使ってUTOが日本で製造したものです。

UTOの求めるニット作りはシンプルでベーシックなニットです。素材の良さをもちも大事にしています。ウールの宝石と呼ばれるカシミヤ同様、春夏素材でこの世界最高峰とも呼べるリネンを使ってモノづくりができることは、ニット屋冥利に尽きるものです。

麻の原料の亜麻の花が一面に咲いた



関谷晋著

コーラスは楽しい  
岩波新書



図書館で岩波新書の関屋晋著の『コーラスは楽しい』を見つけた。懐かしい関屋先生の名前に再会し早速借りて読みました。記述の中に一緒に旅したブルガリアの音楽コンクールの記述があり当時が甦りました。

関屋先生は残念ながら2005年に亡くなりましたが、日本の合唱の大功労者です。関屋先生とは2度一緒に旅したことがあります。最初は76年に大東文化大学混声合唱団の学生たちと、『ウィーン青少年音楽祭』に参加する2週間の旅。そして2回目は翌年、湘南市民コールとブルガリアのヴァルナでの『国際合唱コンクール』出場で、このときは日本代表の感がありました。

現在もそうですが日本のアマチュア合唱のレベルは世界でもかなり高いのです。

音楽をやっていたらアマチュアでも本場のヨーロッパで歌っていたら、外国の人たちにも聴いてもらいたいのというは究極の夢です。私たちの旅行会社は、そんな日本の優れたアマチュア音楽家たちの夢の実現をサポートし、日本の文化を世界に紹介する旅行が専門で、普通の旅行屋とはかなり違った旅行屋でした。1970年代の頃ですからまだまだ海外旅行が特別な時代です。

海外への演奏旅行は経済的側面はもちろんです。学生以外は全員そろって長い休みを取ることが一番大変でした。70年当時は仕事は何より大事、『素人の趣味で何日も休みを取るなんてとんでもない』という風潮で、コーラスメンバーの皆さんがそろって休みを取るためにはいろいろな仕掛けが必要でした。

湘南市民コールのブルガリア出場はすぐに決まったんですが、77年当時は冷戦下で通信事情が悪く、正式な招待状が届かなくて苦労しました。

招待状が届き、マスコミに大々的に取り上げてもらえる。日本代表や藤沢市の代表として休暇も取りやすくなる。そのように渡航することの地下作りが大変な時代でした。その後やっと行けるメンバーが決まるという状況でした。

ブルガリアでの湘南市民コールの成績は2位。関屋先生が最優秀指揮者賞と成果は上々。荘厳なオペラハウスでの表彰式が感動的で今でもそのシーンが蘇ります。

日本へ帰国する前日の打ち上げパーティの時、思いもよらず、旅行の裏方としての労をねぎらう感謝をこめてという事で、僕のためにみんなが『荒城の月』合唱してくれました。懐かしい日本の歌を見事なハーモニーで歌ってもらい涙が止まらなかった経験があります。ブルガリアでの貴重な思い出です。

世界のホテルを旅する(四十七)

元 旅行屋のお勧め マイアミ・USA

## コロニー ホテル

南北16kmにも及ぶビーチで世界的に有名なアメリカ屈指のリゾート、マイアミは色とりどりのパラスが並び、優雅な海水浴場というイメージを持っていましたが、実際のビーチは、大西洋の波の高いこと高いこと、怖い程の波です。そしてそのビーチの砂は、波打ち際はもちろん砂ですが上のほうは石の浜で歩けないほどに石がごろごろ。白砂青松の日本の盆栽的リゾートのイメージを見事に裏切ってくれました。

マイアミビーチは1910年〜30年代に南北に鉄道が開発されるのを機に開発が始まったそうです。

その頃は今のビーチは見る影もなく一面マングローブに覆われていたそうです。現在もマイアミ半島の南部は広大な湿地帯で、エバーグレイズ国立公園でワニなどの野生動物が生息するところですので納得です。

20世紀初頭のアメリカは東部の時代で、当時栄えていた北部の寒さから逃れて暖かいところへすず避寒地としてリゾート開発が促進されました。

当時、マイアミはもっとも輝かしい時代で、新しい建築スタイルとして直線的な美を表現したアーデルコ風な建物がもてはやされていたそうです。

マイアミのリゾートといえばゴルフ場に囲まれたゴージャスなホテル群を思い浮かべますが、コロニーホテルは古き良き時代のアーデルコ風な内外装で、豪華とかセレクトではないけどレトロな雰囲気のとつてもいいホテルでした。



ホテルに到着したのが日没間近でした。何はともあれビーチ！ビーチ！と勇んで海岸に出たら冒頭の高い波とコロコロの石に遭遇してびっくりしました。

コロニー ホテルでの一番の思い出はなんとと言っても部屋での自炊豪華ディナー。それまで約3週間、節約節約でやってきた貧乏旅行だったのでここで思いっきり食べて満足しました。

マイアミには遅く着き、3人ということ、多分ホテルの好意で空いていたキッチン付きの良い部屋をくれたのだと思います。部屋にはお皿・ナイフ・フォークはもちろんキッチンセットが完備されている。長期滞在用に設備された部屋でした。こんなことは日本では経験できないからと、コンドミニアムを借りた気分です。

近くのスーパーに買出しです。なんとと言ってもステーキのお肉が安い！厚さ2センチもある骨付きリブが500円もしない。長い旅行で、これまで貧乏でやってきたので、夢の分厚いステーキに狂喜乱舞！デザートまで買い込んでの豪華なディナーに大々満足のディナーが忘れられません。